

奈良・人と自然の会



発足 三年目を迎えて

奈良・人と自然の会

会長 川井 秀夫

5月11日。古都の新緑に囲まれた『奈良国際セミナー』にて、平成15年度の通常総会が開かれました。当日は小雨のなか、24名の来場者を迎え、50余名の委任をいただき、滞りなく了える事ができました。会員各位のご理解とご協力に対し、心からお礼申し上げます。（議事内容については6月号 会報をご参照下さい）

さて、本会も三年目に入ります。「石の上にも三年」と申しますが、基礎固めの仕上げの年と位置付け、新しく参画いただいた新幹事の方々と共に、頑張って参りたいと心を新たにしております。

世情は依然として混迷の中にありますが、特にサーズの蔓延には、当面の対策もさる事ながら、伝えられる情報から類推の域をでないものの、自然破壊による人間の所業が引き金であることは否めません。エイズ・狂牛病・新型の熱病等々、自然界に閉じ込められたウイルスが、傲慢無頼な人間社会に反乱を起こしている様に思います。

我々も、自然保護・環境保全の思いを新たに、小さな一歩ではありますが、グローバルな視点で、自然と共生できる豊かな社会づくりに貢献できればと考えております。

本会も、まだまだ胸を張る実力を備えたとは言えませんが、今年は新しいステップとして、次の事を軌道に乗せたいと考えております。

1 黒髪山キャンプフィールドの活用

ドリームランド近くにありますが、自然観察・自然工作・ミニキャンプ・バーベキュー等、子供を対象にした諸活動には格好の施設です。先日、我々有志会員でクラフト研修会を実施し、今後、固定フィールドとして利用する事を確認。

2 生駒市 西畑町 棚田・雑木林の活用

シニア自然大学の多目的な野外フィールドとして、本会を主体に、行政・地元農家の支援を得て、開拓に取り組む。現地視察から始まり、青写真はこれからになります。夢のあるテーマとして、実現に向けて取り組む。

3 社叢林調査グループの立ち上げ

社叢（社寺林・塚の木立・ウタキ）の保全、拡充、創出に関する調査・情報・研究等 地球環境の悪化に悩む世界の国々に、日本文化の発信の一つとして環境学的指針を提示する。

全国的組織の中で、社寺のメッカである奈良を中心とした活動を、本会の有志メンバーで今秋には発足を目指している。

これらの新しい活動指針をご理解いただき、今後、多目的且つ広範な外部からの受託要請にも、積極的に対応していきたいと思ひます。

それぞれの地域、町、村 で企画要請があれば、ぜひ事務局までご連絡下さい。

今年も会員全員の『良知良能』を生かして頑張ってもらいたいと思ひます。更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。



第10回東海自然歩道観察会（6月8日）

和田華子

歴史と自然が豊かなフィールド、多彩なメンバー、魅力的な企画に誘われて県境を越えて入会させていただき、毎回どんな出会いがとわくわくしながら参加しています。

さて6月8日、梅雨入り前の願ってもない好天、標高 810mの峠越えと溪谷歩きに備えて杖をスタンバイ、たっぷりのお茶とお弁当を背負って、さあ出発です。

午前10時、総勢31名、前回のゴール龍穴神社から車道のわきを歩き始めました。宇野川橋から林道へ、枝先の葉が白くなったマタタビの葉裏を返したり、コガクウツギの装飾花の花卉を数えたり、スイカズラの花を吸って名の由来に納得したりのゆっくりした楽しい歩みが始まりました。

やがて林道と分かれて、スギ林の間の山道へ、徐々にきつくなる勾配に息をはずませながらの登りです。静御前の舞姿にもたとえられるフタリシズカの群生、遠い夜空の小さな星を集めたように白色や淡い紫色に咲くコアジサイ、間伐や枝打ちなどの人手が入っていて、程よくさしこむ陽光が豊かな林床の植生をはぐくんでいるのでしょうか。

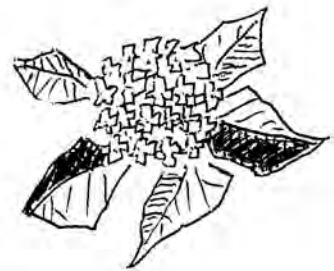
そして天上の音楽のように樹間を渡ってくる鳥の声、あれはツツドリ、こちらはオオルリ、カッコウにホトトギス、ミソサザイと教えられて名を知った鳥たちに癒され、疲れを忘れて一足一足登っていきました。

12時30分クマタワ峠（810m）に到着、昼食、しばらくは林道歩きです。ミズナラ、ヤブウツギ、ハリギリ、テツカエデ、サルナシ、タカノツメ、クマシデ、ダンコウバイ、ケヤマハンノキ、コシアブラ、谷ぞいの林道のせいか樹種が豊富で、葉っぱの饗宴に何度も足が止まります。

14時、カジカの声に迎えられて、済浄坊溪谷の小道へ、大小の滝と草や樹など自然が造りだした見事な溪谷に見とれましたが、濡れた岩で滑らないよう、時々へっぴり腰になりながら通過しました。

谷筋をぬけると、空が大きく広がって、眼前には曾爾高原、左手に鎧岳。

そして、今日のゴールは曾爾村八ヶ大字の産土神、門僕（かどふさ）神社の御葉付イチヨウ、「植物の進化系統を示すものとして学術上極めて貴重」と案内板にもあって、ひとしきり樹上を見上げたり、周りを回ってみたり。イチヨウの樹の下で反省会を済ませ、なんとかバスにも間に合いました。お疲れさま〜っ。席に座ったらチョット眠くなってきました。下見をして資料を用意して下さったスタッフの方々、ありがとうございました。ホントいい一日でした。



6 月度例会 ―黒髪山での自然工作― 樋口 善雄

6月15日(日)曇り。黒髪山キャンプフィールドにて、13名の参加。

○目標 今回の工作は来る6月28日(土)の奈良県環境フェアへの準備と打ち合わせも兼ねました。従って、当日の作品は、環境フェアでの出し物に限っての工作体験でしたが、習熟していただいて、他のイベントのリーダーとして活躍していただけるように材料等準備しました。

○工作概況

1 「エンピツとモックン」 「温度計付きモックン」

ナイフ取り扱いの基本ではそれぞれが子供になって考えていました。温度計は温暖化防止に因でのサービスです。

2 「ヨシ笛」

材料が川の土手や野原で容易に入手できること。ナイフ1本で簡単に作って遊べること。また音を出す事は注意を引きます。

3 「セミ丸君」(セミ太郎は商標侵害に相当)

セミの声でなく、カエルの声になったり、雌のセミを作ったりして楽しみました。

○振り返り

①「奈良人と自然の会」の発足以来3年目を迎えました。ボチボチ人前に出ても良いのではないかと思います、先ずは県フォーラムの行事に参加しています。

②今年度に入ってから、我々の固定フィールドにしたい話題があれこれと舞い込んでいます。今回の黒髪山キャンプ場は候補地の一つで、午後はフィールド内を見学し、野鳥のBGMの散策を楽しみました。

七夕と植物



寺田正博

- | | |
|-----------|----------|
| 一、笹の葉さらさら | 二、五色の短冊 |
| 軒端にゆれる | 私書いた |
| お星さまきらきら | お星さまきらきら |
| 金銀砂子 | 空から見てる |

七月七日は七夕である。七夕を「たなばた」と読むのはなぜでしょう。万葉集では、「タナバタ」に「棚機」や「棚幡」があてられ、織女を意味した。七月七日の夜に、わし座の牽牛星（アルタイル）と、こと座の織女星（ベガ）が出会う伝説は中国で生まれた。その成立は紀元前にさかのぼる。その日に種々の願いが叶えられるという伝承も発祥は中国で古書にも書かれている。中国ではこの日に女性が裁縫の上達を願う風習が盛んになり長く続いた。しかし、中国では七夕にタケやササを使うことはなかった。

織女と牽牛の物語は古くから日本に伝わり万葉集には130あまりの七夕歌が詠まれている。しかしその歌はすべて織女と牽牛のロマンスに関するものばかりで、願いを叶えてもらうとか、タケを飾る歌は一首もない。平安時代になると宮中では、七夕に棚を作って女性が裁縫の上達を願う行事が行なわれ、室町時代にはカジノキ（クワ科）に歌の短冊を結びつける習慣が生まれたが、まだタケやササは記録にはない。

「天の河とわたる船の梶の葉に思ふことをも書きつくるかな」（後拾遺集・上総乳母）現在のように七夕にタケを使う習わしが書物に載るのは、「太平記」が古く、盛んになるのは江戸時代からである。

国文学者の折口信夫の見解では、古代、水辺の小屋に閉じこもり、神にささげる布を織りながら神を迎えた棚機女（たなばたつめ）がいたというのである。年に一度、水のほとりで神を待つこの棚機女と、天の川で年に一度再開する中国の織女伝説がうまく一致し、わが国のタナバタになったと。本来、七夕は水神を迎える儀式でもあったわけである。現代も島根県の宍道湖では水辺に七夕のタケを立てる。

七夕とタケの結びつきは、文献上は南北朝時代からであるが、七夕を神の儀式とみるならば、タケにはそれに適合する要素が十分あり、歴史は古い。七夕のタケも水辺に立てる風習が原型だとも思われる。

いろいろな願いごとの橋わたしに竹や笹が使われた理由ははっきりしないが、中国では昔から重用されていたことが種々の文献等にでているようです。

星空がきれいに見えない環境になっていますが、七夕にロマンの思いを馳せるのも一興ではないでしょうか。

- 参考引用文献 「竹と人生」上田弘一郎 「竹の世界」室井 綽
「植物と行事」湯浅浩史 「年中行事を科学する」永田 久 他

ネイチャー なら
奈良・人と自然の会

第11回 東海自然歩道・自然観察会のご案内

〈コース名〉 ⑪ 曾爾高原 [8 km]
 〈日 時〉 7月2日(水) 8時50分 集合(時間厳守)
 〈集合場所〉 近鉄名張駅：西口改札(三重交通バス・曾爾方面乗場口)
 近鉄ナンバ〔奈良行快急〕7:31発…鶴橋7:36乗換〔松阪行区快〕7:41発…八木8:16…名張8:47
 * 西大寺〔橿原神宮前行各停〕7:37発…八木8:07乗換
 〈行 程〉 近鉄名張…太良路～国立曾爾自然の家～亀山峠～中太郎生…近鉄名張
 〈担 当〉
 西谷範子 寺田正博 弓場厚次

※ 今回をもって、第一回シリーズを終了いたします。終了にあたり名張駅前
 で打ち上げ会を開催しますので、お気軽にご参加ください。

ネイチャー なら
奈良・人と自然の会

[8月度例会]のご案内

和佐又山自然観察会と「森と水の源流館」

大峰山系の大普賢岳東面から南面にかけて切り立つ大岩壁と深い溪谷を望む和佐又山(1344m)。ブナ林に響く野鳥の声を聞きながら、ヨツバヒヨドリの花に訪れるアサギマダラが1600kmの長距離を移動するとは思えない、優雅な飛翔する蝶を手にとれる距離で観察し、また「森と水の源流館」の涼しい館で水の勉強をしませんか。 気楽にご参加ください。

〈日 時〉 : 8月17日(日)～18日(月) [一泊2日]
 〈集 合〉 : 近鉄大和上市駅 改札口 午前9時50分
 〈行 程〉 :

8月17日(日) :

大和上市 ～ 和佐又口……………和佐又 Hütte ……………和佐又山………… Hütte
 710 (1:15) 1140 (:30) 1344 (:30) 1140
 宿 泊 : 和佐又ヒュッテ 07468-3-0027

8月18日(月)

和佐又 Hütte ……………和佐又のコル……………笹ノ窟……………和佐又 Hütte
 1140 (:20) 1240 (1:30) 1460 (1:00) 1140
 ～「薬師の湯」～「森と水の源流館」～ 大和上市

〈交 通〉 : 西大寺〔橿原神宮前行急行〕8:24…橿原神宮前着8:56乗換
 ・ 近鉄阿部野橋〔吉野行急行〕8:20…橿原神宮前8:59…大和上市9:49
 ・ 近鉄阿部野橋〔吉野行特急〕8:40…橿原神宮前9:17…大和上市9:52

〈費 用〉 : 13,000円(宿泊費、現地交通費等)

〈お申し込み〉: 先着25名 弓場厚次宛

締切: 7月10日

〈担 当〉

弓場厚次

大石門三

阿部和生(

2003年6月度定例幹事会報告

1、日時：2003年6月6日（金）pm6:00～9:00

2、奈良県 文化会館 別室

3、出席者：阿部、大寺、大石、川井、勝田、小山、寺田、豊島、野田、弓場、樋口

4、議事：

〔報告事項〕

- ①会員動向他：会員78名（会費納入者）登録者86名（豊島）
- ②第9回東海自然歩道 室生寺コース 参加者24名 機関誌に記載済（企画）
- ③大和高田市環境フェスティバルの件 日時：6月28日機関誌に記載し協力依頼済
事前準備行事として 6月度例会 日時：6月15日 黒髪山キャンプフィールド
機関誌に記載し、会員に協力依頼済 【4種類の工作品を準備】（樋口）

〔承認事項〕

①総会で会員より、幹事会でぜひに決め手欲しいと提議、幹事一任とされました、
行事下見の交通費の件… 資料代の件…

東海自然歩道観察会開催の毎回到、下見のご苦勞頂いております寺田氏と弓場氏に、
1回目行事の終了する8月に、交通費補助として各¥10,000を手渡しをし、
6月よりの行事の折り折りに、下見の折りの交通費、又 資料代等を参加者負担と
するかをも含め、会員に広く意見を聴き、検討を依頼する事とする。（会長）

〔討議事項〕

①新年度の役割分担

会長：川井 副会長&会計：豊島 事務局長：弓場 機関誌編集：勝田
機関誌発送&事務：大寺、野田 企画：阿部、大石、川井、寺田、樋口、弓場
広報：川井 7月度より定例幹事会場は奈良県 文化会館で開催予定

②8月行事予定 8月17日（日）～18日（月）和佐又山にて1泊研修を予定し
早速6月8日の行事より会員に呼びかけを実施予定とし、7月行事は無しと決定

③総会で決定した旗の色～6月8日 会員に見せ決める。

④生駒市西畑地区にあるたんぼ 200田有り…過疎地対策等により生駒市も
バックアップし、補助金もつけて、自然保護活動を依頼の話にて、会の活動地として
、今後前向きに、現地を下見検討する事とする。

編集後記

各部の決定事項や連絡事項および投稿は7月20日までに下記までお送りください。

連絡先：勝田 均

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫